

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

①入館者数の増加

平成22年度から全学的基盤経費予算の配分により、本館の開館時間の大幅延長運用を正式に開始した結果、入館者数が前年度からさらに1割近く増加した（年間約66万人）。本館の開館時間数（有人）は国立大学ではトップであり、学生の自学自習環境として活用されている。

②学生用図書の整備と貸出冊数の増加

総長裁量経費を獲得し、目標としていた学生1人当たり1冊（合計約18,000冊）の学生用図書整備を実施した。その結果、年間の貸出冊数が前年度比で5万冊（22%）増加した。

③情報リテラシー教育支援

情報リテラシー教育を支援するため、「東北大学生のための情報探索の基礎知識．基本編」を作成し、新入生等約3千人に配布した。また、後期の全学教育科目授業として図書館が中心となって「大学生のための情報探索術」を開講し、70人の受講があった。

また、本館・分館・図書室で、情報探索方法を中心とした図書館講習会を実施し、全学で合計約1,600名の参加者が受講した。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

東北大学機関リポジトリ（TOUR）のコンテンツの拡充を進め、学内の教育・研究成果（Research and Education）の登録件数は3万9千件以上、貴重資料（Rare Collection）の登録件数は1万6千件以上となった。登録件数としては、全国第5位となっている。

また、教育・研究成果（Research and Education）の利用は平成22年度前半期だけで270万件を超え、ダウンロード件数としては全国第1位となっている。

※朝日新聞社『大学ランキング．2012年版』による

平成22年度の総ダウンロード件数は、654万件となった。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

①企画展の開催

江戸学の宝庫であるコレクション「狩野文庫」の資料を中心とした企画展「クールジャパンのルーツをたずねて ～江戸庶民の楽しみ～」を、平成22年10月8日から11月4日まで本館において開催し、1千名を超える入場者があった。会期中には石川秀巳教授（国際文化研究科）による講演会「江戸小説の創り方」を開催し、約50人の市民の参加があった。

②リベラルアーツサロンの開催

文系コラボレーション・オフィスと連携・協力し、本館メインフロアでリベラルアーツサロンを合計3回開催し、大学の公開空間としての図書館の活用を図った。

③齋藤養之助家史料の公開

戦前に全国第2位の大地主であった齋藤養之助家の史料目録を完成することで、日本近代史研究にとって第一級の史料群の公開の準備を整えた。また、代表的な史料の展示会を実施した。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

東日本大震災後の復旧作業において、学生ボランティア組織「HARU」を積極的に受け入れ、職員と協働で書架の復旧作業を実施した。ボランティアに参加した学生は延べ約800名で、平成23年3月から6月まで、47日間にわたる協働作業となった。